

土木・建築連携 に関するアンケート 集計結果

アンケートWG・主査

野口貴文（日本建築学会、東京大学）



アンケートWGメンバー構成

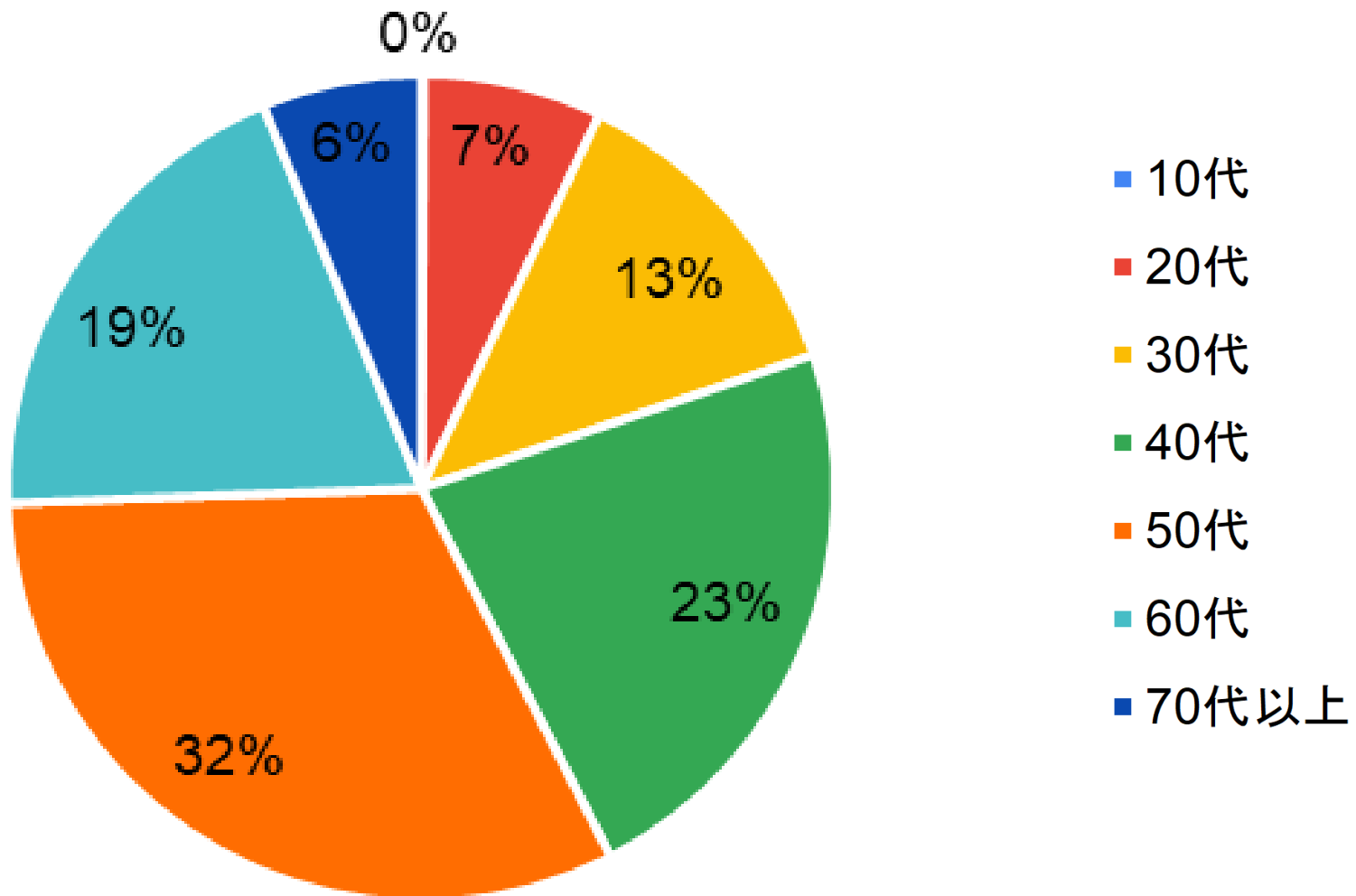
土木学会

上田多門	深圳大学
中村 光	名古屋大学
羽藤英二	東京大学
渡邊武志	パシフィック コンサルタンツ
真田純子	東京工業大学
小林將志	JR東日本
大島直樹	パシフィック コンサルタンツ
塚田幸広	土木学会

日本建築学会

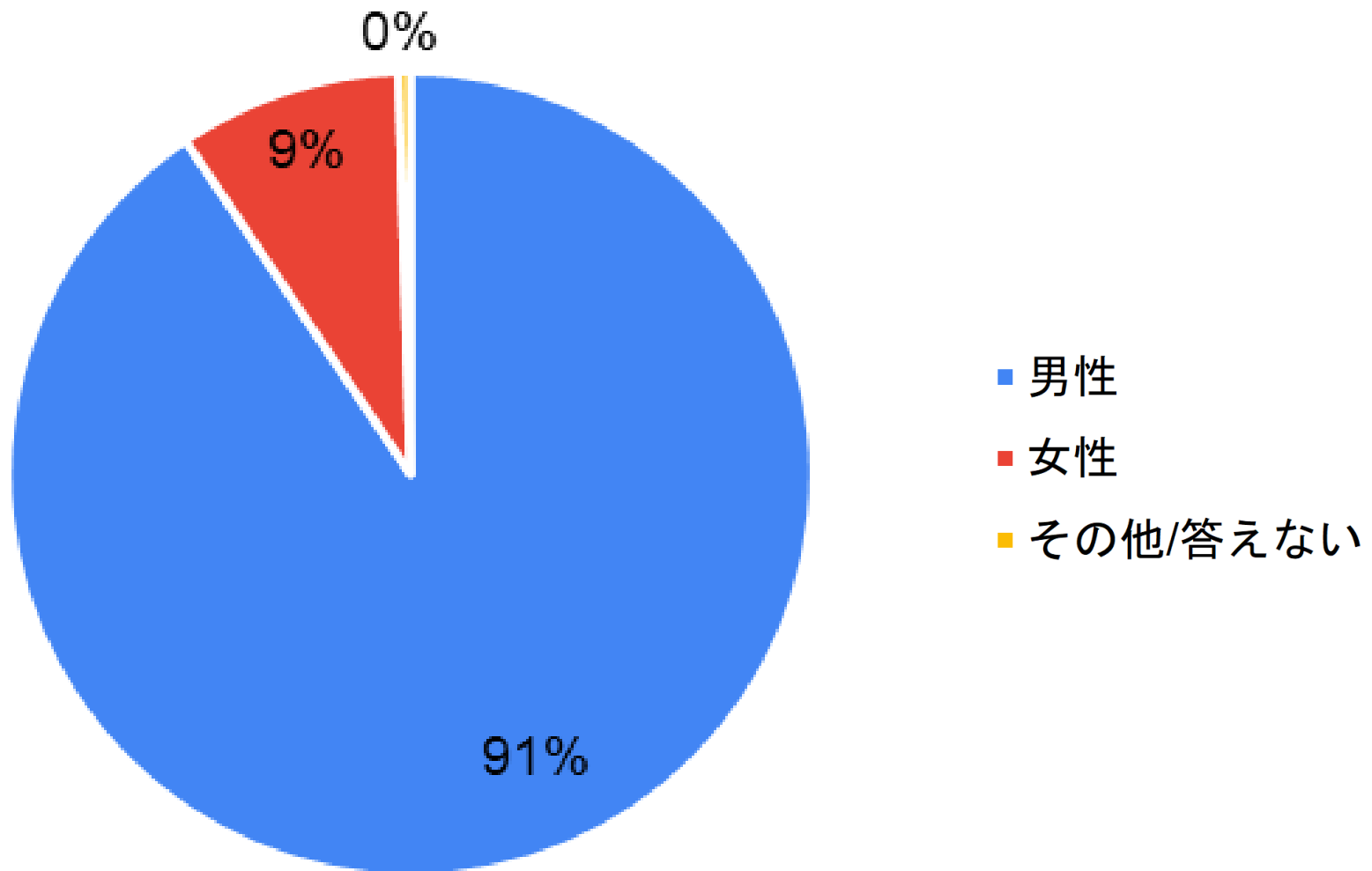
野口貴文	東京大学
清家 剛	東京大学
楠 浩一	東京大学
斉藤雅也	札幌市立大学
瀬田史彦	東京大学
小野田泰明	東北大学
小野寺篤	建築学会

1. 年齢



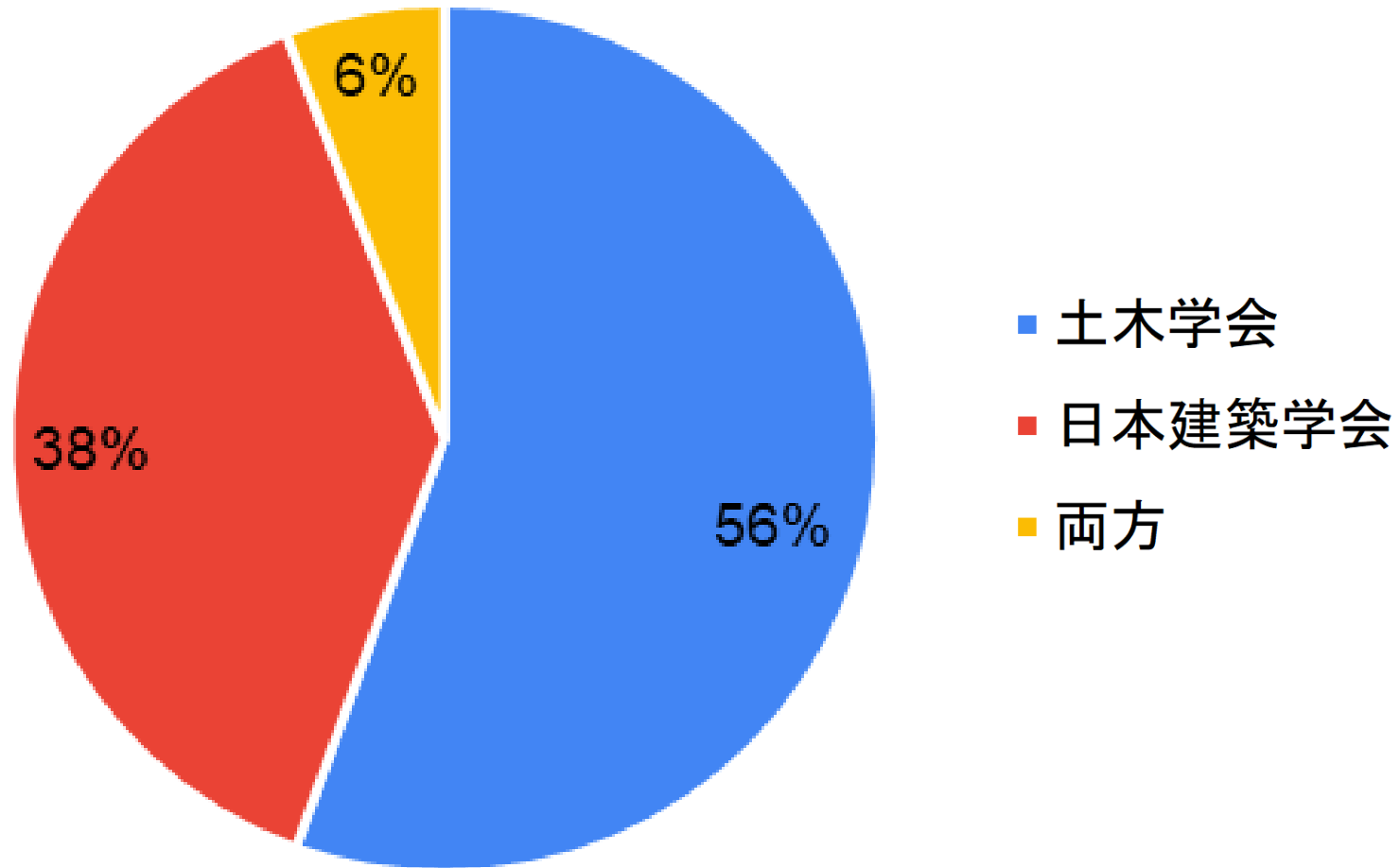
回答数: 5550

2. 性別



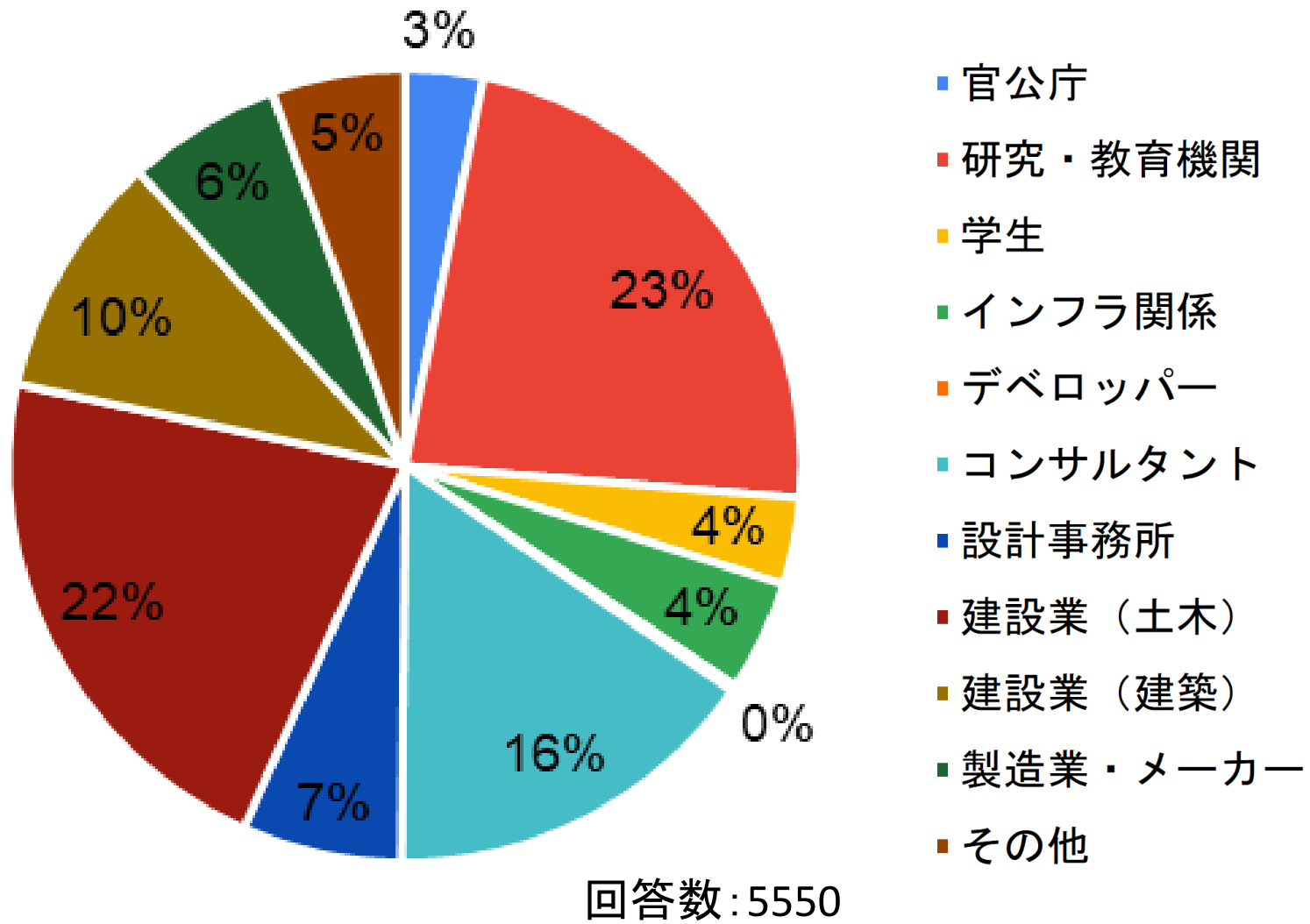
回答数: 5550

3. 所属学会

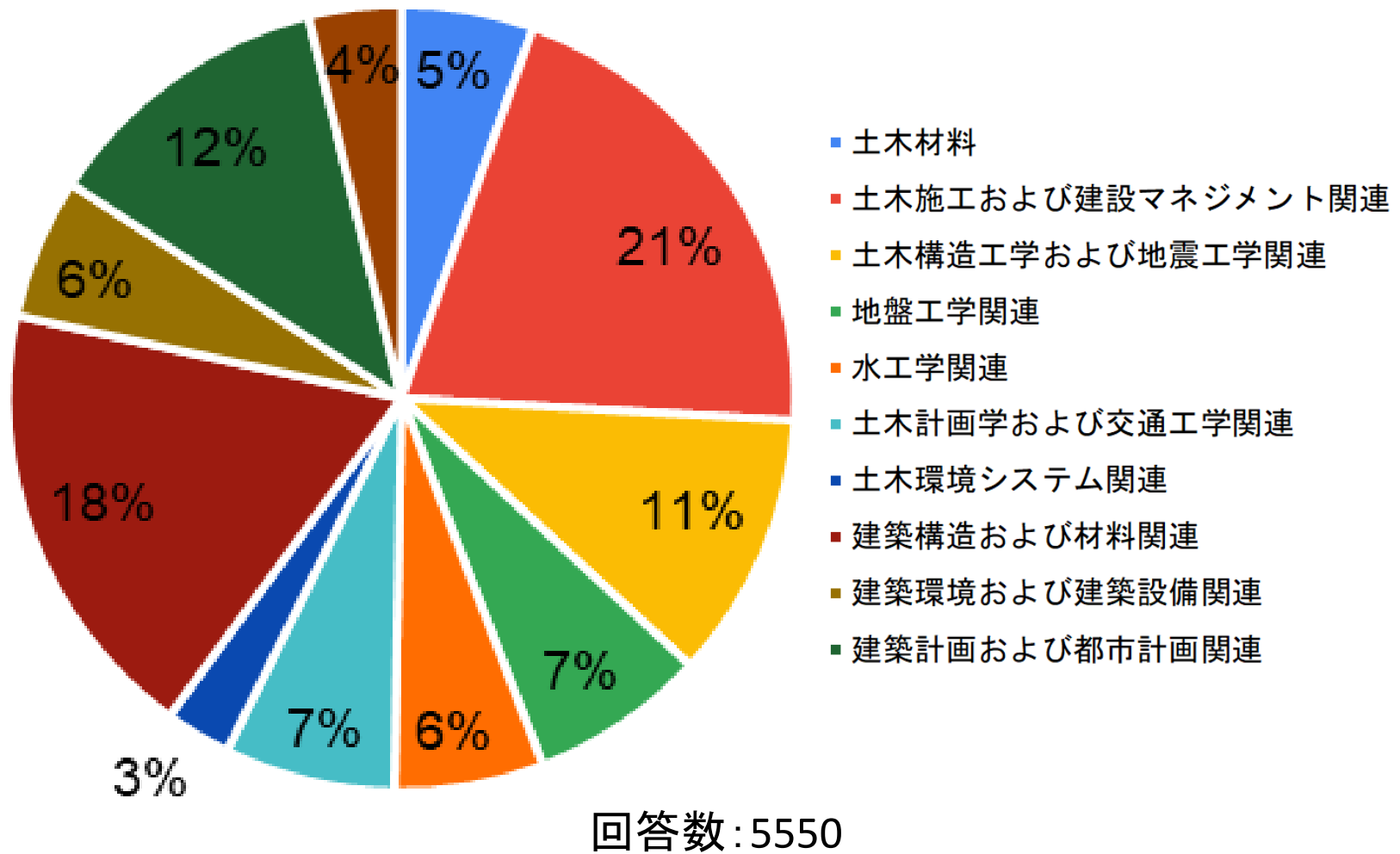


回答数: 5550

4. 業種

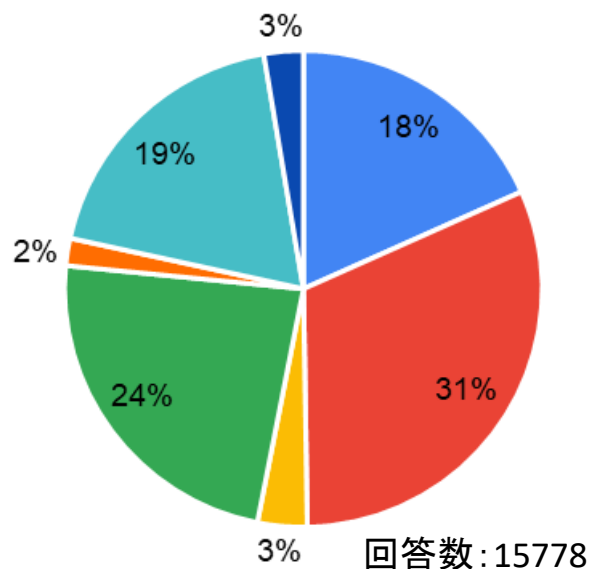


5. 専門分野



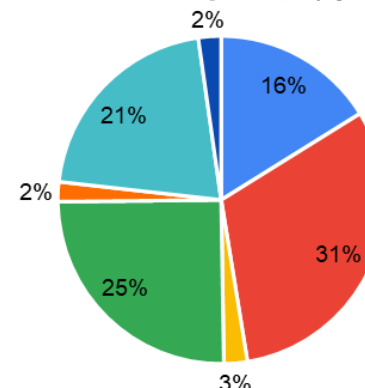
6. 土木工学(あるいは土木技術者)の重要な役割は下記のうちどれだと思いますか？

全体・所属学会別回答

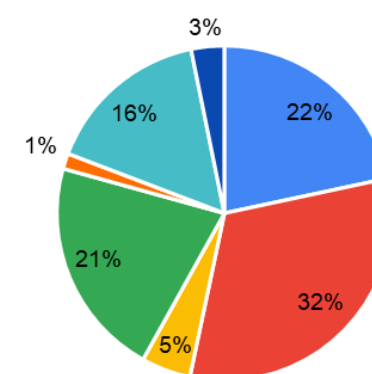


- ①地球の環境を守る
- ②人の命と財産を守る
- ③文化的価値を保全する
- ④快適な生活環境を作る
- ⑤人生を豊かにする(娯楽、余暇)
- ⑥経済的な発展に寄与する
- ⑦文化的発展に寄与する

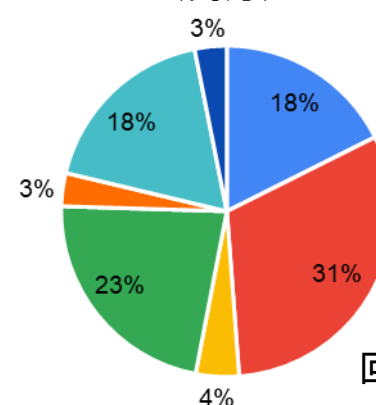
6. (土木学会所属)



6. (日本建築学会所属)



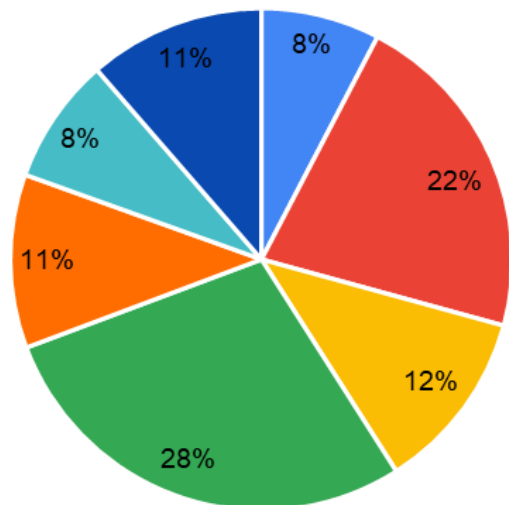
6. (両方)



- ・建築学会所属者は、土木工学に主に「地球の環境を守る」、「人命と財産を守る」ことを期待している。
- ・一方土木学会所属者は、「地球環境」「人命と財産」「生活環境」「経済発展」の4項目が主な役割と考えている。

7. 建築学(あるいは建築設計者・技術者)の重要な役割は下記のうちどれだと思いますか？

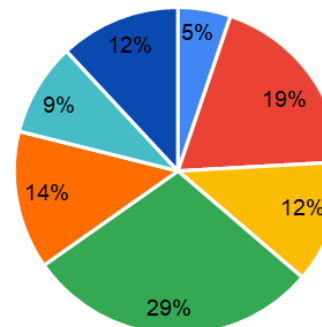
全体・**所属学会別**回答



回答数:15857

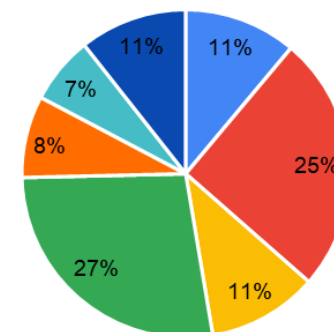
- ①地球の環境を守る
- ②人の命と財産を守る
- ③文化的価値を保全する
- ④快適な生活環境を作る
- ⑤人生を豊かにする(娯楽、余暇)
- ⑥経済的な発展に寄与する
- ⑦文化的発展に寄与する

7. (土木学会所属)



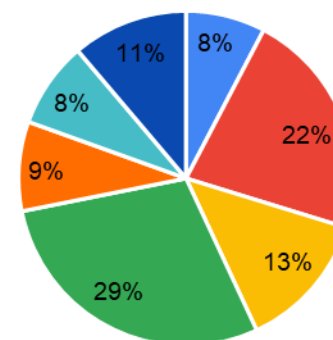
回答数:8750

7. (日本建築学会所属)



回答数:6169

7. (両方)

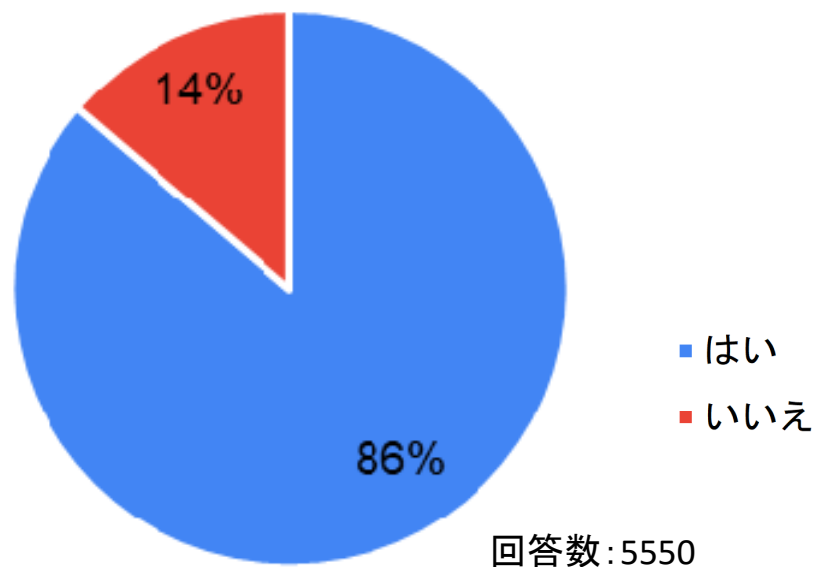


回答数:938

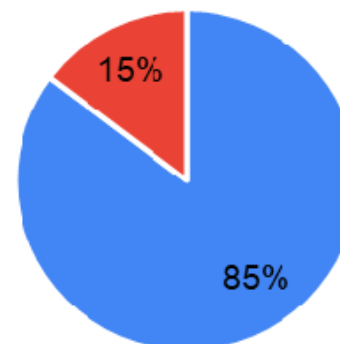
・土木学会所属者は、建築学に主に「**快適な生活環境を作る**」ことを期待している。
 ・一方建築学会所属者は、「**快適な生活環境を作る**」ことに加え「**人命と財産を守る**」ことも重要な役割と認識している。
 ・建築学会所属者は土木学会所属者よりも「**地球環境を守る**」ことが重要な役割と認識している。
 ・両学会に所属している人は、土木学会所属者と似たような傾向である。(「**地球の環境を守る**」割合が小さい)

8. 現在、業務上や研究上で、土木と建築で連携の必要性は感じていますか？

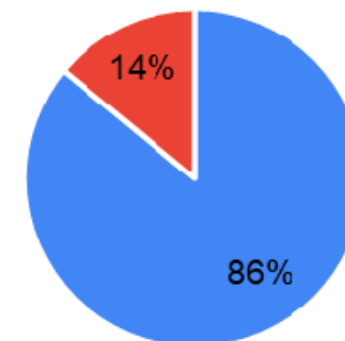
全体・所属学会別回答



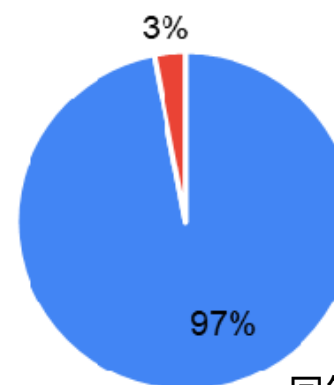
8. (土木学会所属)



8. (日本建築学会所属)



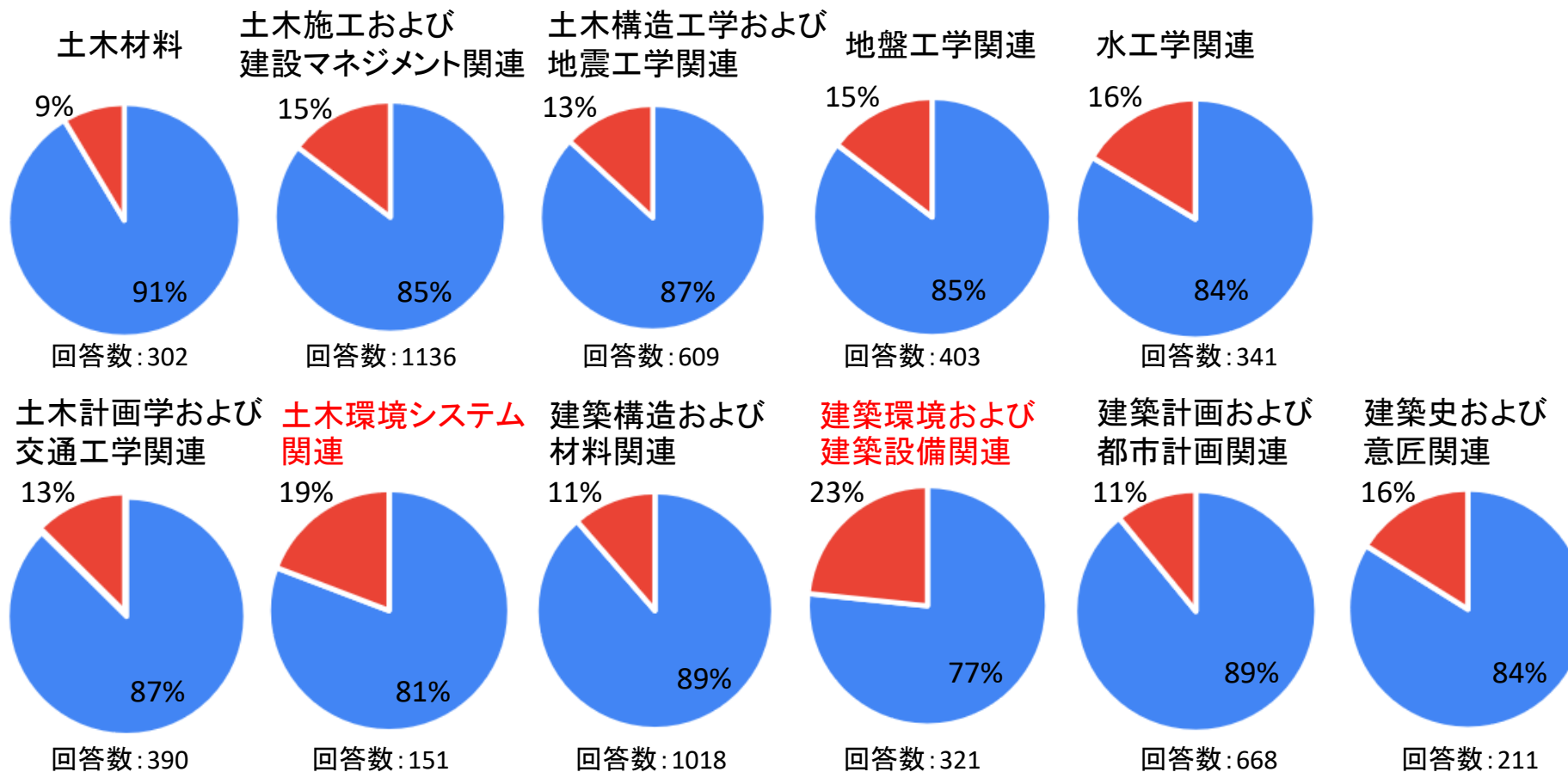
8. (両方)



・所属学会の別によらず、概ね85%の回答者が土木と建築で連携が必要と感じている。
・両学会に所属している人は、連携の必要性を感じている割合が大きい。

8. 現在、業務上や研究上で、土木と建築で連携の必要性は感じていますか？

専門分野別回答

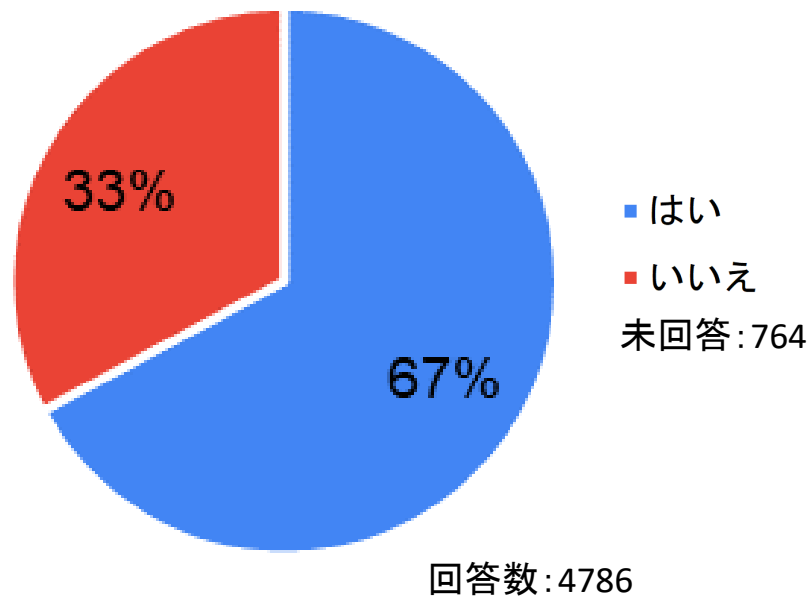


・連携の必要性を感じている割合は概ね同程度であるが、「土木環境システム関連」、「建築環境及び建築設備関連」では若干小さい傾向がある。

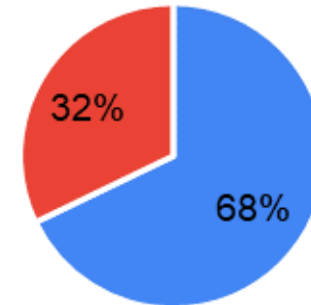
■ はい ■ いいえ
回答数合計: 5550

9. 現在、業務上や研究上で、土木と建築とが分か れていることで不便を感じたことはありますか？

全体・所属学会別回答

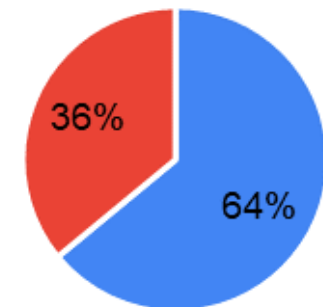


9. (土木学会所属)



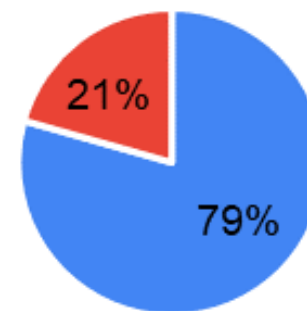
回答数: 2629

9. (日本建築学会所属)



回答数: 1837

9. (両方)

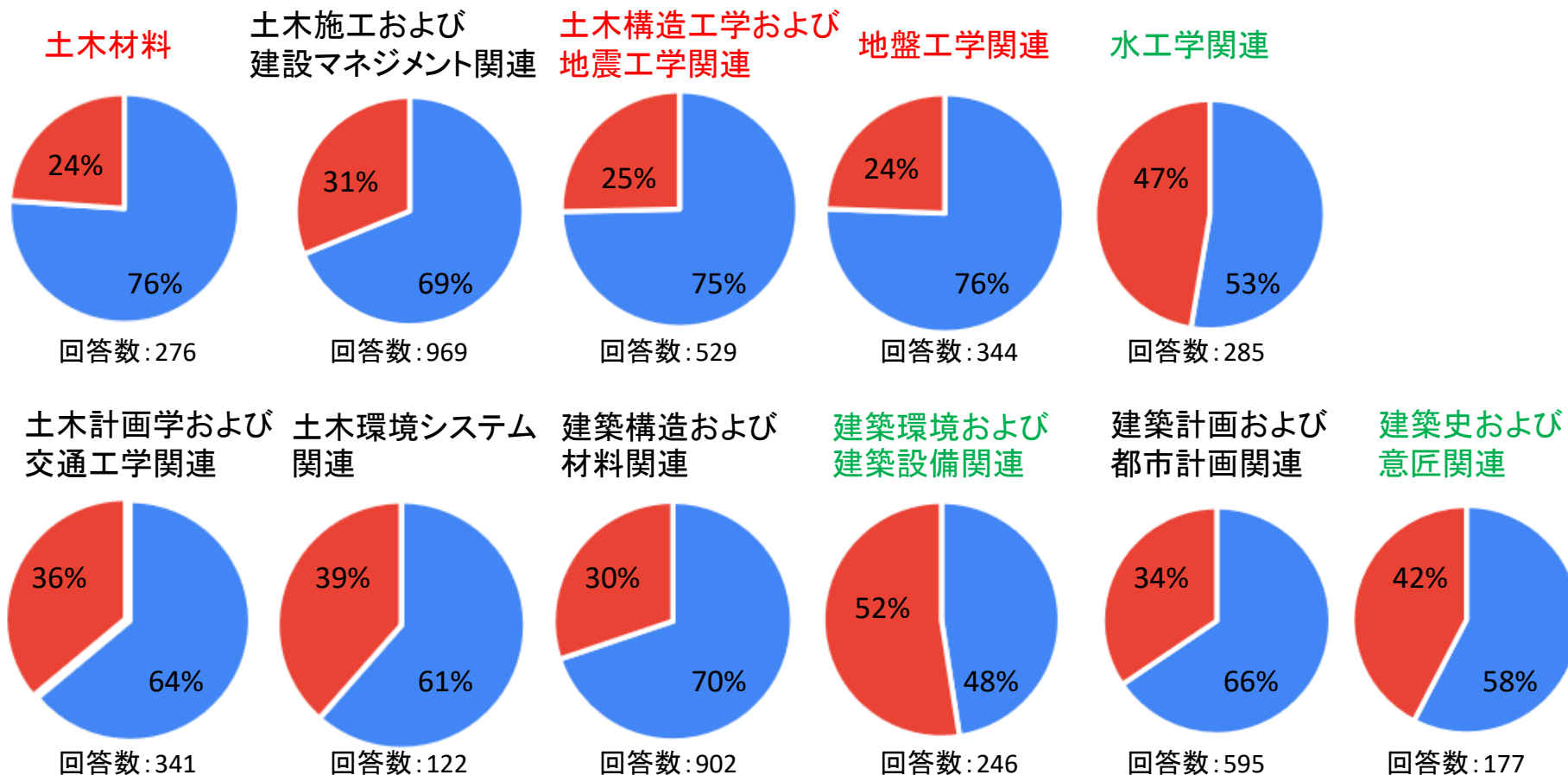


回答数: 320

- ・土木学会と建築学会のいずれかのみ所属している人では、不便を感じた割合に大きな違いはない。
- ・両学会に所属している人は、不便を感じた割合が大きい。

9. 現在、業務上や研究上で、土木と建築とが分か れていることで不便を感じたことはありますか？

専門分野別回答

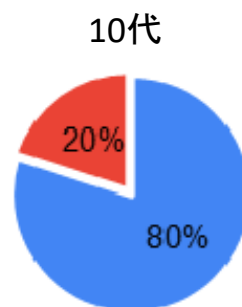
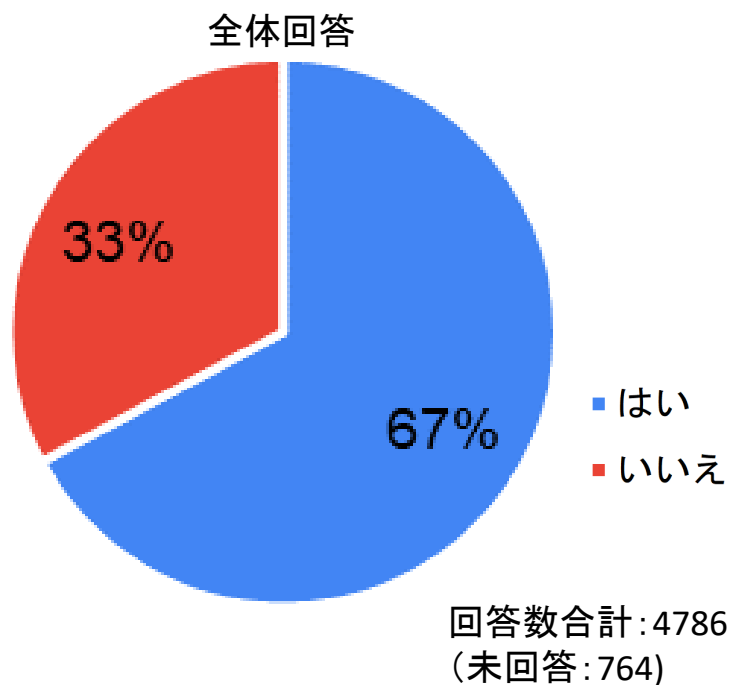


・不便を感じた割合は、「土木材料」、「土木構造工学および地震工学関連」、「地盤工学関連」で若干大きい傾向がある。
 ・「水工学関連」、「建築環境および建築設備関連」、「建築史および意匠関連」では、不便を感じた割合は相対的に小さい。

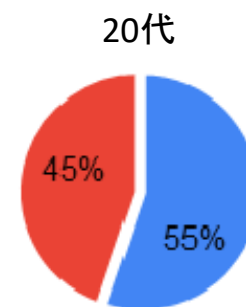
■ はい ■ いいえ
 回答数合計: 4786

9. 現在、業務上や研究上で、土木と建築とが分か れていることで不便を感じたことはありますか？

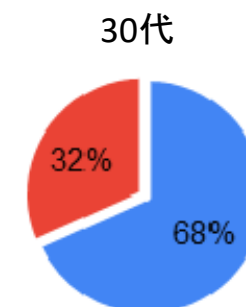
年齢別回答



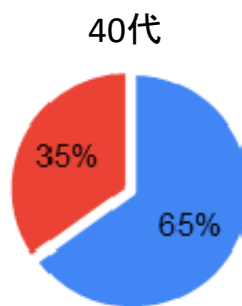
回答数: 5



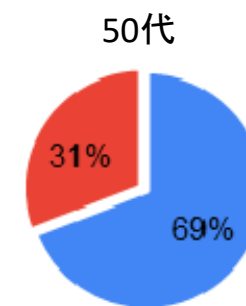
回答数: 324



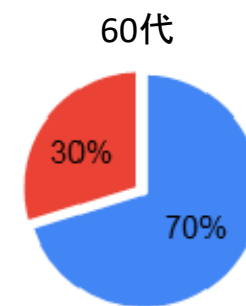
回答数: 600



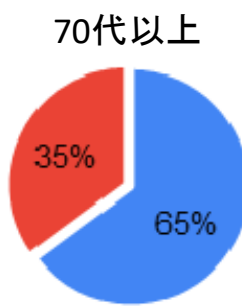
回答数: 1083



回答数: 1549



回答数: 923

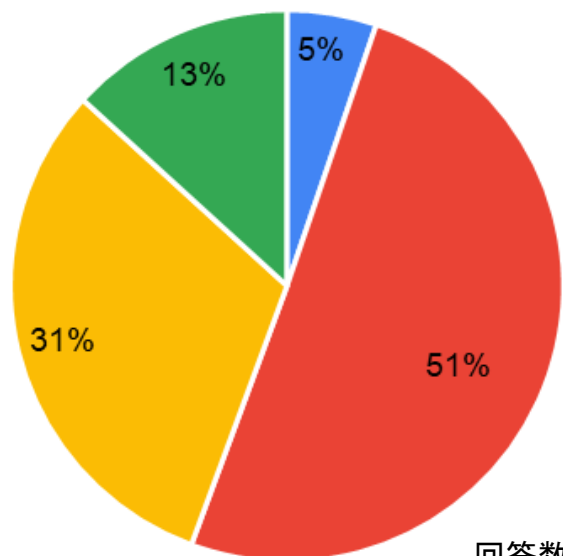


回答数: 302

- ・20代から30代で、不便を感じた割合が増加している。
- ・30代以降の回答で、不便を感じた割合は概ね7割程度であった。

10. 現在、連携の必要性を感じないのはなぜですか？

全体・所属学会別回答



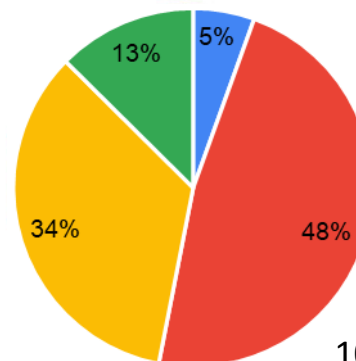
- 連携にあたって調整などの仕事が増えるから
- 業界としては連携する必要があるが、個人としては連携する必要は感じないから
- 現状の土木業界や建築業界の在り方に問題を感じていないから
- その他

回答数: 764
※問8参照

その他回答の一例

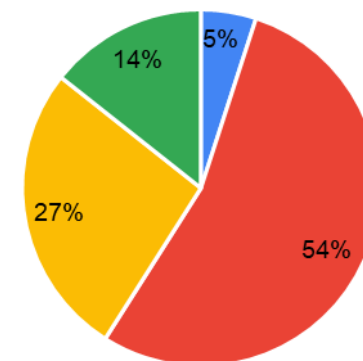
- ・既に他学会で連携が取れている
- ・連携が必要になった経験がない
- ・使命や役割が異なるため、別々に発展していく必要があるなど

10. (土木学会所属)



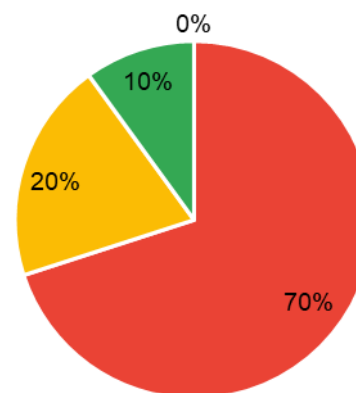
回答数: 454
※問8参照

10. (日本建築学会所属)



回答数: 300
※問8参照

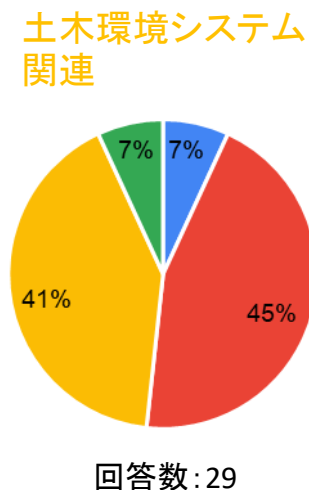
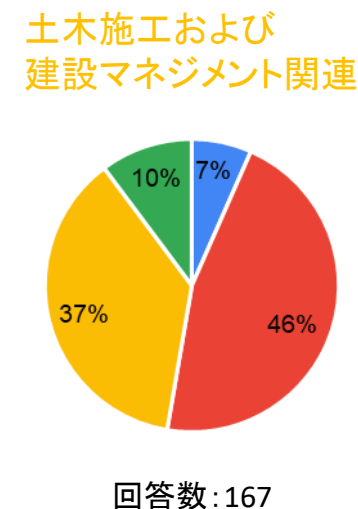
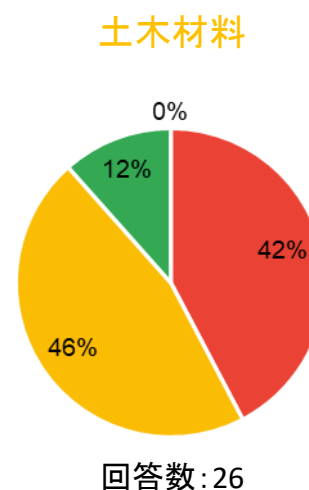
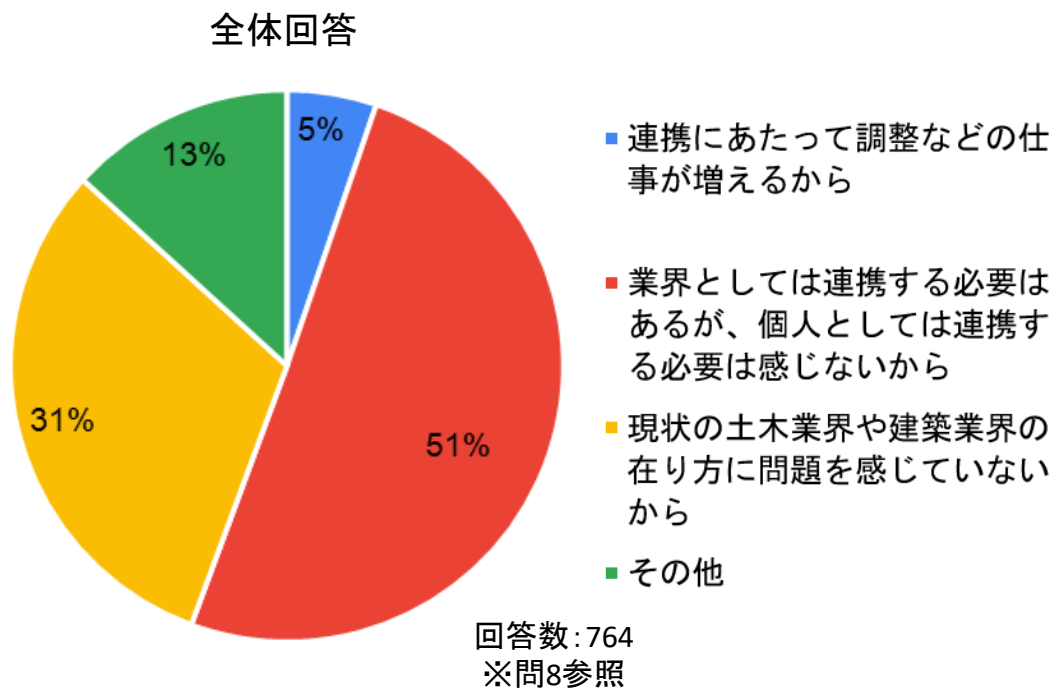
10. (両方)



回答数: 10
※問8参照

10. 現在、連携の必要性を感じないのはなぜですか？

専門分野別回答(土木系分野)

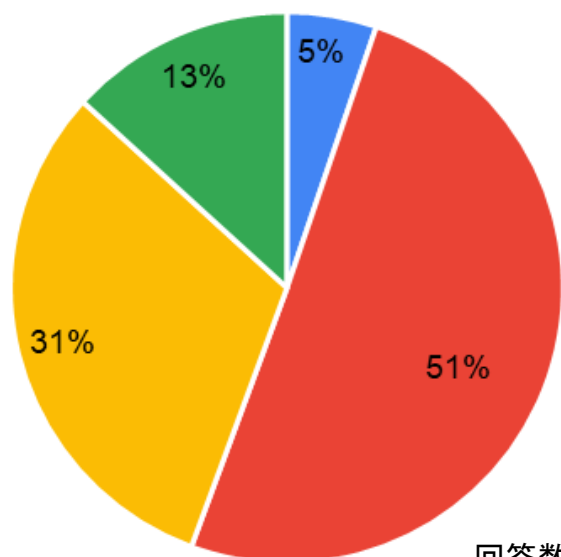


・「土木材料」、「土木施工および建設マネジメント関連」、「土木環境システム関連」では「現状の在り方に問題を感じていない」割合が大きい

10. 現在、連携の必要性を感じないのはなぜですか？

専門分野別回答(建築系分野)

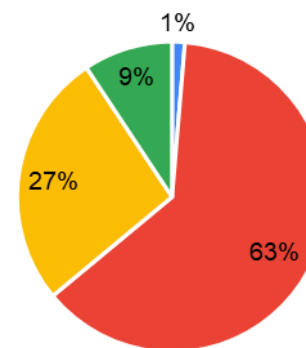
全体回答



- 連携にあたって調整などの仕事が増えるから
- 業界としては連携する必要があるが、個人としては連携する必要性を感じないから
- 現状の土木業界や建築業界の在り方に問題を感じていないから
- その他

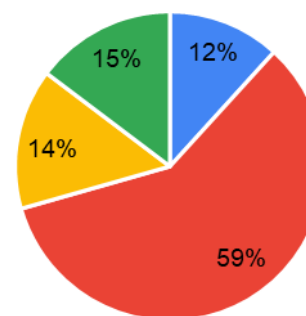
回答数:764
※問8参照

建築環境および建築設備関連



回答数:75

建築史および意匠関連

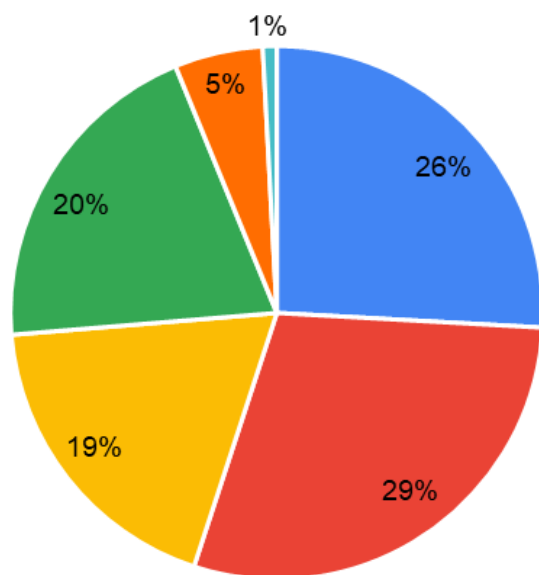


回答数:34

・「建築環境および建築設備関連」、「建築史および意匠関連」では、「個人としては連携する必要性を感じない」割合が大きい

11. 土木・建築が連携するにあたって、どのようなところに不便を感じていますか？(3つまで選択可)

全体・所属学会別回答



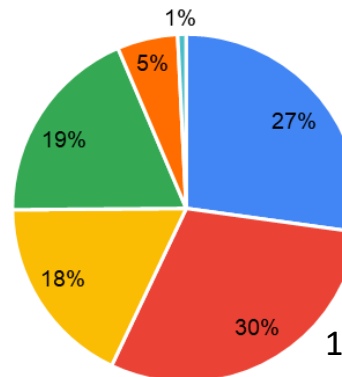
回答数: 8123

- 法令の煩雑さ：例) 1つの事業でも扱うものによって参照すべき法令が異なる
- 技術の違い：例) 技術基準, 用語・数式, ツールなどが異なっていて、誤解が生じる
- 組織の壁：例) 所属組織, 学協会, 業界などが異なり、研究などに支障が出る
- 価値観の違い：例) 受けてきた教育の違い等により、基本的に目指すところが違うなど価値観が異なる
- 連携による仕事の増加：例) 連携にあたって通常よりも作業量や調整が増加する

■ その他

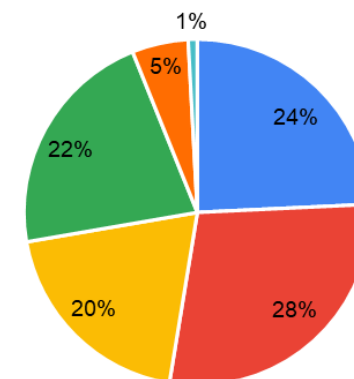
・建築学会と土木学会で、不便を感じている点に大きな差異はない
 ・「法令の煩雑さ」、「技術の違い」に不便を感じている割合が大きい。

11. (土木学会所属)



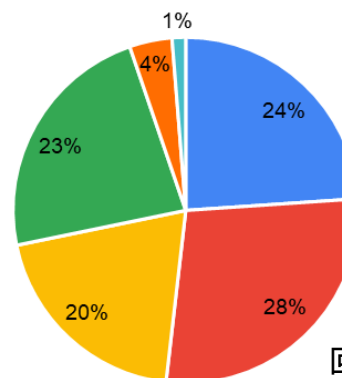
回答数: 4560

11. (日本建築学会所属)



回答数: 2936

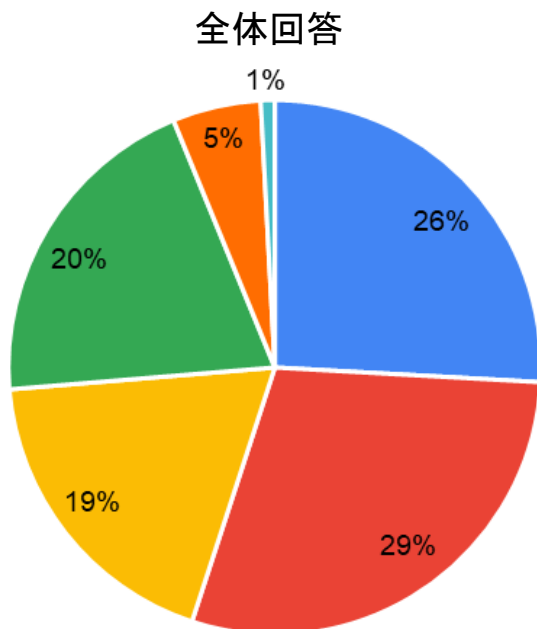
11. (両方)



回答数: 627

11. 土木・建築が連携するにあたって、どのようなところに不便を感じていますか？(3つまで選択可)

専門分野別回答(土木系分野)



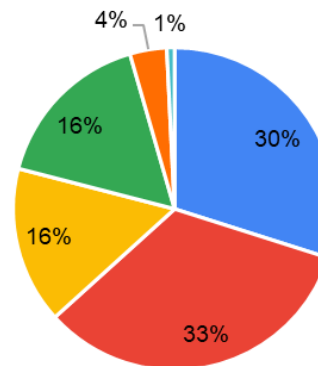
回答数: 8123

- 法令の煩雑さ: 例) 1つの事業でも扱うものによって参照すべき法令が異なる
- 技術の違い: 例) 技術基準, 用語・数式, ツールなどが異なっていて、誤解が生じる
- 組織の壁: 例) 所属組織, 学協会, 業界などが異なり、研究などに支障が出る
- 価値観の違い: 例) 受けてきた教育の違い等により、基本的に目指すところが違うなど価値観が異なる
- 連携による仕事の増加: 例) 連携にあたって通常よりも作業量や調整が増加する

■ その他

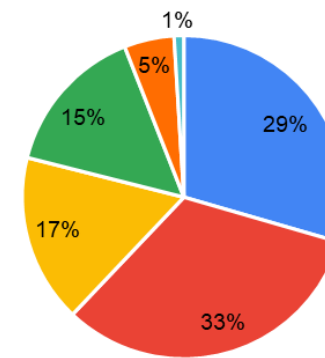
・「土木材料」、「土木構造工学および地震工学関連」では、「技術の違い」の点で不便を感じている割合が大きい
 ・「土木計画学および交通工学関連」、「土木環境システム関連」では、「価値観の違い」の点で不便を感じている割合が大きい

土木材料



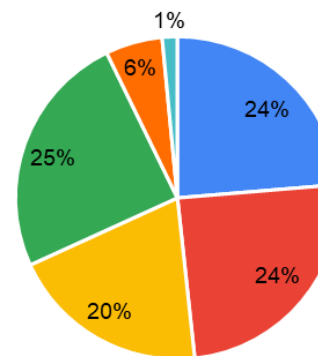
回答数: 515

土木構造工学および地震工学関連



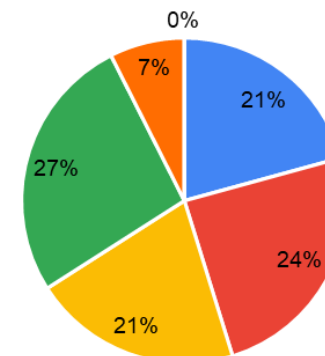
回答数: 1021

土木計画学および交通工学関連



回答数: 528

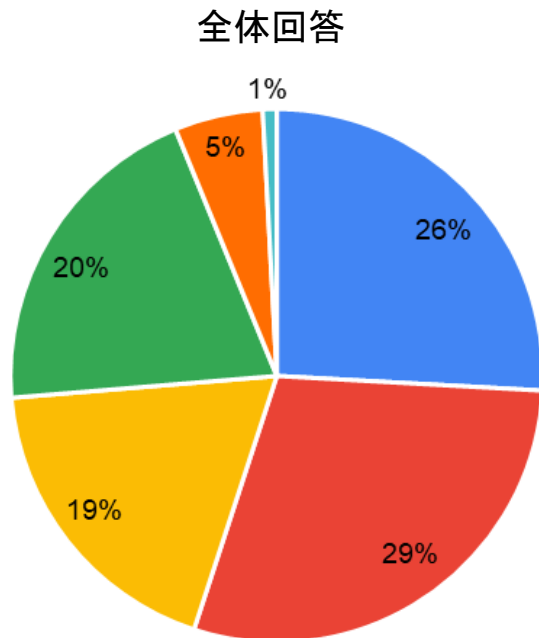
土木環境システム関連



回答数: 188

11. 土木・建築が連携するにあたって、どのようなところに不便を感じていますか？(3つまで選択可)

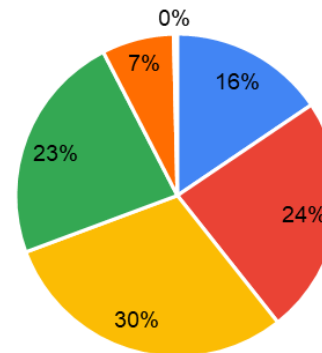
専門分野別回答(建築系分野)



回答数:8123

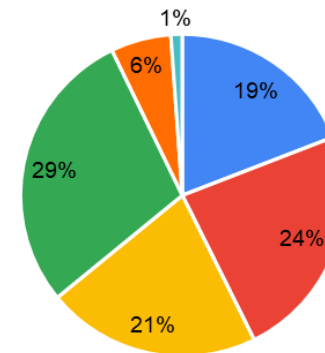
- 法令の煩雑さ：例) 1つの事業でも扱うものによって参照すべき法令が異なる
- 技術の違い：例) 技術基準, 用語・数式, ツールなどが異なっていて、誤解が生じる
- 組織の壁：例) 所属組織, 学協会, 業界などが異なり、研究などに支障が出る
- 価値観の違い：例) 受けてきた教育の違い等により、基本的に目指すところが違うなど価値観が異なる
- 連携による仕事の増加：例) 連携にあたって通常よりも作業量や調整が増加する
- その他

建築環境および建築設備関連



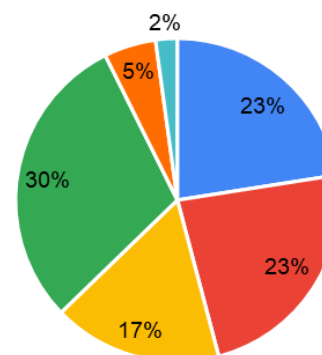
回答数:277

建築計画および都市計画関連



回答数:963

建築史および意匠関連

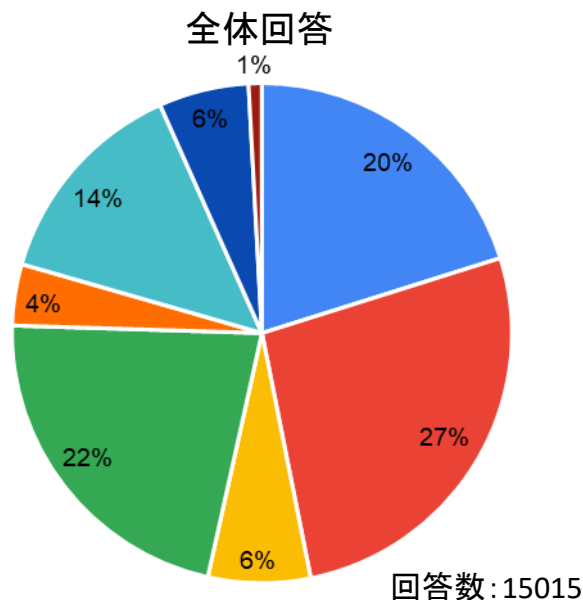


回答数:231

- ・「建築環境および建築設備関連」では、「組織の壁」の点で不便を感じている割合が大きい
- ・「建築計画および都市計画関連」、「建築史および意匠関連」では、「価値観の違い」の点で不便を感じている割合が大きい

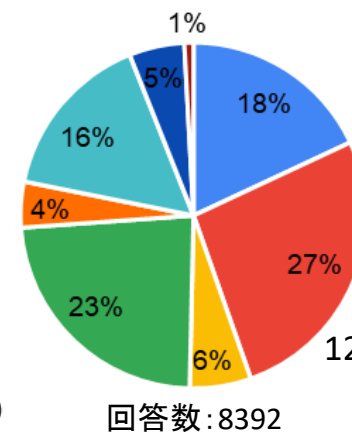
12. 今後、土木と建築はどのような内容に対して連携して取り組むべきと考えますか？

全体・所属学会別回答

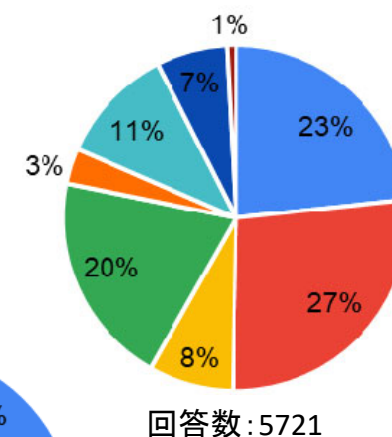


- ①地球の環境を守る
- ②人の命と財産を守る
- ③文化的価値を保全する
- ④快適な生活環境を作る
- ⑤人生を豊かにする（娯楽、余暇）
- ⑥経済的な発展に寄与する
- ⑦文化的発展に寄与する

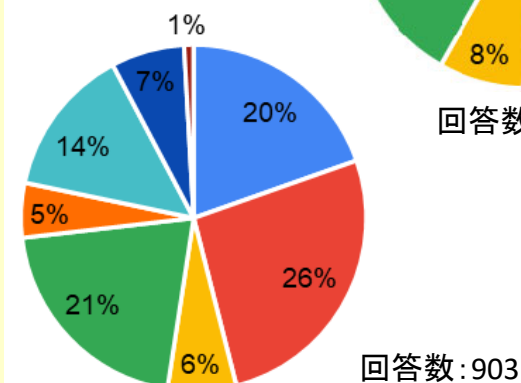
12. (土木学会所属)



12. (日本建築学会所属)



12. (両方)



・両学会ともに、「地球環境」「人命と財産」「快適な生活環境」の観点で連携の必要性を感じている。

・建築学会は、土木学会よりも「地球環境を守る」点で土木学会との連携を必要と感じている。

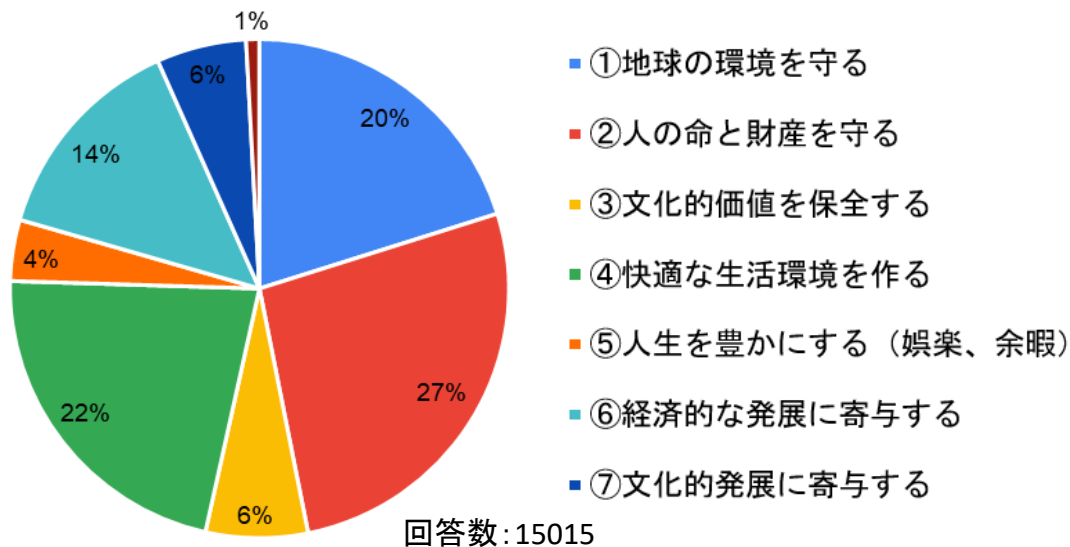
・土木学会は、建築学会よりも「経済発展」の点で建築学会との連携が必要と感じている。

・両学会に所属している人は、土木学会所属者と同様に、「地球環境を守る」点での連携を必要と考える割合は比較的小さい。

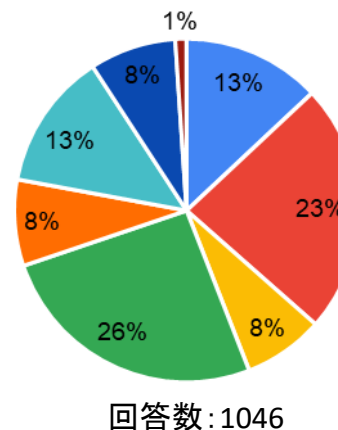
12. 今後、土木と建築はどのような内容に対して連携して取り組むべきと考えますか？

専門分野別回答(土木系・建築系分野)

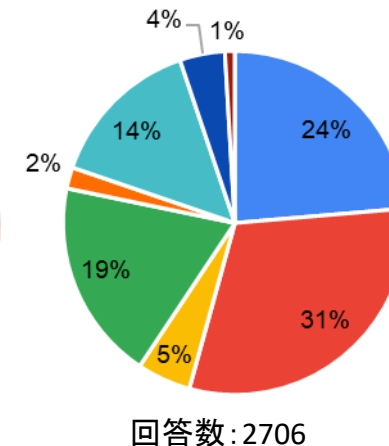
全体回答



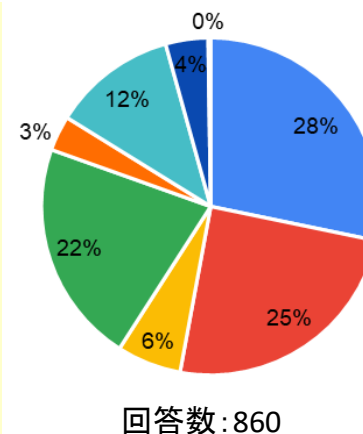
土木計画学および交通工学関連



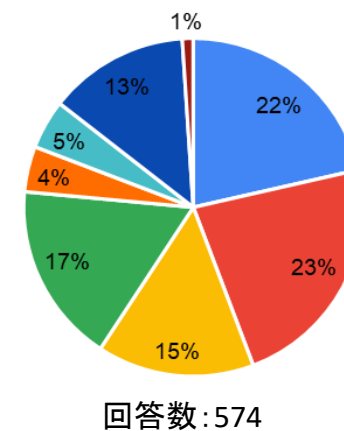
建築構造および材料関連



建築環境および建築設備関連



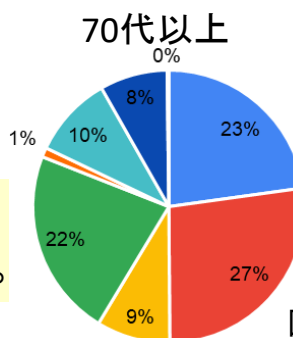
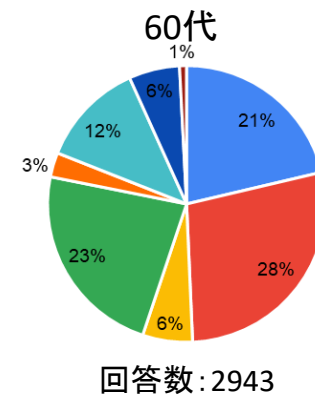
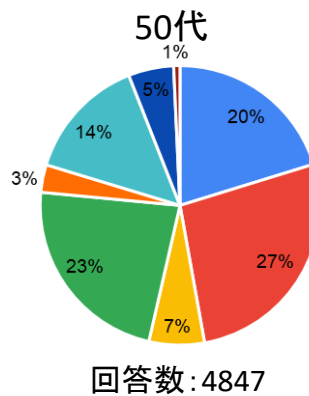
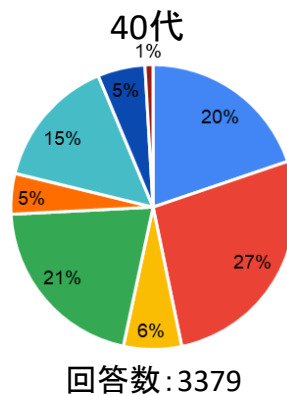
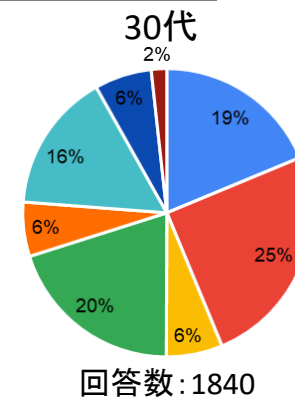
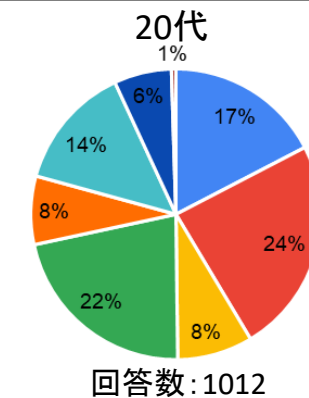
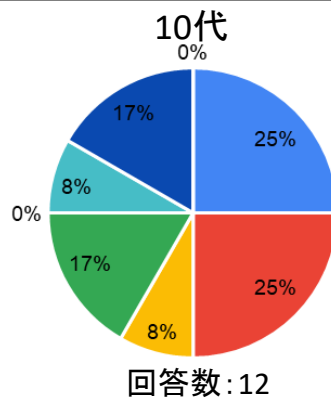
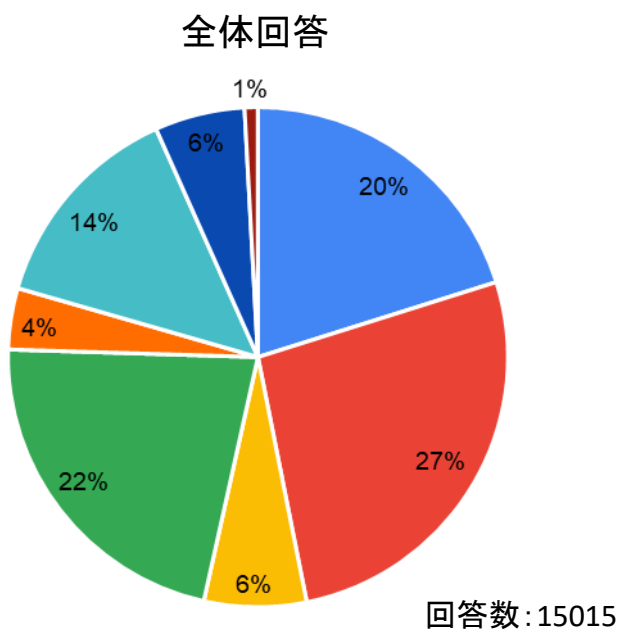
建築史および意匠関連



- ・「土木計画学および交通工学関連」では、「快適な生活環境を作る」点で連携の必要性を感じている割合が大きい
- ・「建築構造および材料関連」では、「人の命と財産を守る」点で連携の必要性を感じている割合が大きい
- ・「建築環境および建築設備関連」では、「地球の環境を守る」点で連携の必要性を感じている割合が大きい
- ・「建築史および意匠関連」では、「文化的価値を保全する」点で連携の必要性を感じている割合が大きい

12. 今後、土木と建築はどのような内容に対して連携して取り組むべきと考えますか？

年齢別回答



- ①地球の環境を守る
- ②人の命と財産を守る
- ③文化的価値を保全する
- ④快適な生活環境を作る
- ⑤人生を豊かにする（娯楽、余暇）
- ⑥経済的な発展に寄与する
- ⑦文化的発展に寄与する

・若い年代ほど「人生を豊かにする」点で連携の必要性を感じている割合が大きい。